



はじめは雑誌やインターネットを駆使して情報収集、徹底的に研究した。建設日記とマニュアル書はボロボロに。(上)／木材はなんでも捨てずにとっておく。その中から生まれたアイデア表札。(左)

01 ようこそ、
自分で建てた自慢の我が家へ

徹底した手づくりスピリットで 自然と共生する暮らし

南アルプス、八ヶ岳に囲まれる高台にあり、ゆるやかな勾配と、屋根材の配色が遠目にも美しい、延べ48坪の大型ログハウス。3年の間、東京と山梨を往復しながらほとんど全てをセルフビルドで建てた藤井さんのポリシーは都会の流儀を捨ててその土地に従うこと。その意気込みで周囲の人々も巻き込まれ、地元での縁が深まった。アイデアと工夫が随所に見られる遊びゴコロいっぱいの家だ。

**なんにもないのが原点
自然の法則に従って生きる**

日本一日照時間の長いことで知られる明野村。10年前に興味の写真を撮り歩いてきたこの土地に、藤井さんが自分の家を建てることに決めたのは、4年前の春だった。「都会の生活は無駄が多すぎる。何もない原点に戻って、自然の中で自然

と共存していくことが大事だと思う」。

もともと日曜大工が好きで、物づくりが好きな性格。けれどもこれだけ大きなログを自分ひとりで建てるとなると話が違う。「お金を出せば見栄えのいいものがあるでしょう」。そう言って藤井さんは、確かに世界中どこにもない家をセルフビルドで建ててしまったのだ。



**藤井邸
完成
アルバム**

セルフビルドは楽しみと勉強の2つを心がけて



②基礎

業者に頼んでいたが基礎の段階から手伝いをしてきた。これは土台ができて、材を組み上げる前の段階。ここでボルトを締めるまでが基礎の仕事。



①着工前の様子

土地を買う際に、大型のコンテナが入るスペースがあるか確認。他の場所で荷を降ろすとなると、それだけで膨大な手間がかかり、駐車代もかかる。



④1日講習会

ログを建ててみたい、という人が実際に体験するために行われるTALOの1日講習会。この日は全国から40人以上の人が集まった。



③荷下ろし

1台目のコンテナは20フィート。手下ろしだと時間がかかるのでクレーンを借りた。8時間以上かかるとトラック部分は帰ってしまう。後日コンテナを取りにくるとその分経費がかかる。



⑥垂木わたし

同じく基礎工事の会社から借りたユニックで垂木を上げているところ。レンタルすればかにならない出費だ。屋根は事故を避けるため「無理をしないでやる」のが鉄則。



⑤高くなる足場

高くなるとタボを打つのもバランスを取りながら力が入りにくい。基礎を頼んだ建築会社の資材置き場が目間にあり、足場を自由に借りることができたのがラッキーだった。



⑧屋根上げ

雪が降る前に1日も早く上げたかった屋根。屋根さえ上げれば中に木材を入れることができる。台風の時期はその度に地下からポンプで水を汲み上げるのがひと苦労だった。



⑦屋根材貼り

屋根材は以外に重いのでまとめてユニックで上げた。貼り方がひとつでもずれるとおさまらないので、糸をを左右に張って寸法をあわせ、一枚ずつ貼っていく。

行き詰まったら他のことをやる 気持ちの転換で壁を突破

「何もやったことがない人でも時間をかければ立派にできるんだから、自分にもできないことはないだろう」。TALOの1日講習会を受けた藤井さんはそう思った。土地を決めて、はじめの1年目は作業小屋をつくるために、東京からキャンピングカーでやってきて、その中で寝泊まりしていた。翌年着工、仕事をしな

がらの作業だったため、夜中に東京を出て「何かひとつでも仕事を終えて戻ること」を目標に山梨を往復する生活が続いた。その熱心な様子に周囲の人達も動かされ、地元の建築業者が足場や道具を貸してくれたり、地下を無償でつくってくれたりと多くの人が手を貸してくれた。都会から移住してくる人は多いが、その土地に慣れようと思ったら、土地の流儀に従って自分から中に入っていく、その姿勢が重要なのだ。

ボーダーコリーの雑種犬、小雪ちゃんはこので生まれた。犬小屋やノツ子組の本格ログ。制作にはけっこう時間がかかった。



藤井邸総工費内訳

仮設工事(電気・水道) …	75万7100円
基礎工事 ……………	221万円
ログ材料費 ……………	1380円
屋根・板金工事 ……………	0円
左官・塗装工事……………	30万円
設備工事(キッチン、風呂、 トイレ、温水ソーラー)……	500万円
交通費・食費(3年間) ……	200万円
ソーラー発電工事 ……………	250万円
冷暖房・照明器具 ……………	113万円
その他 ……………	295万円
総工費 ……………	約2628万円

COMMENT

資料を調べて各業者別の料金リストを作り自分でやる所と頼む所を明確にしたのがコストダウンにつながった。



天窗からの採光で明るく暖かい雰囲気のリビング。長い日照時間の恩恵を部屋にいても受けることができる。

薪ストーブのあるリビング

ひとりで作れるか心配だったが「大丈夫、自分でつくれるよ」。業者さんにこう言われて、100キロ以上あるストーブを運び、足場を組んで壁に穴を開けて煙突を取りつけた。かかった日数は5日間。はじめて火を入れたときは「ああ、やっとできた」と感慨深いものがあった。けれどもつねに3年分ぐらいは確保しなくてはいけない薪の調達には、いつも苦労している。「別荘でつかっているならまだしも、コストを考えたら、石油ストーブの方がいいかもしれない」。けれども石油特有の匂いや危険性を考えると、つけたままにして朝まで自然に暖かい薪ストーブには何にも替えがたいものがある。

先日は近所の農家を訪ねリングゴの木の



デザインと色が気に入っているアメリカ製アンコール。薪を燃やしたまま寝ても心配なく、朝まで暖かい。床に敷いているのは鉄板、丸太は猫の爪とぎにもなっている。夏はとりはずすだけ。

枝落としを手伝ってきた。1日がかりで枝のせんでいするのはかなりの重労働、けれど落としたりした枝は全て薪になる。農家にとっても大助かりで「オレのところもやってくれないか」と他の家からお声がかかる。お昼休みにお茶を飲みながら何気ないおしゃべりをしていれば地元の人とのつながりができる良さもある。リングゴの木は特に、燃やすと甘い香りが部屋に漂う。



サンルームに取り付けた天窗。これがあるのとないのでは、日の入り方が全く違う。



施工のしやすさから一回曲げているが、煙突は屋根へまっすぐ通した方がよかった。(右) 薪ストーブを使うなら、半年から1年乾燥させることを考えて、常に3年先ぐらいいまで薪を確保した方がいい。(左)

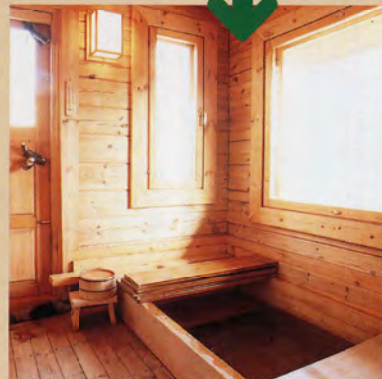
KITCHEN

奥様自慢のキッチンはIHを使用。上のガラス部分は、下から取り付け可能なTHAグリーンハイキの換気扇。まずはダンボールで型紙を置いて位置を確認し、シンクを枠にはめ込んだ。



BATH ROOM

ミカゲ石を買ってきて敷き詰めた。風呂桶はヒノキにしようと思っていたが、固いコウヤマキを業者が勧められ結局値引きも随分してくれた。窓はひとまわり大きいものに付け直した。



WASH ROOM

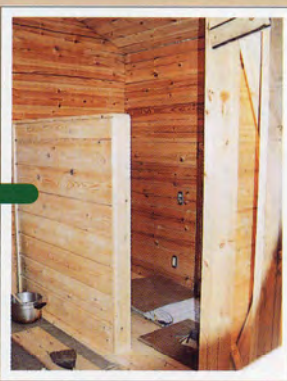


枠組みを置いてサイズを確認してから、まずドリルで板に穴を開け、ジグソーで切る。鏡を大きく戸棚をつくりつけにすれば、じめじめしがちな洗面所をいつも清潔に保てる。



TOILET

トイレ個室になる予定だったが、それでは面白くないと、仕切りを上1/3カットしたら洗面台とのスペースにつながりができた。庭に面した窓も大きく開放感がある。

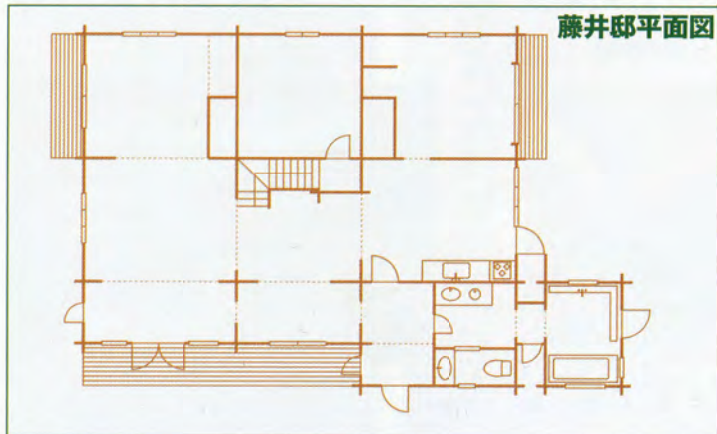


「何回もつけたり、はずしたり、それが楽しいんだよね」。手間を苦と思わずものづくりが楽しくしょうがない。「主人と奥様の生活のアイデアが、家中にあふれている。あれとこの材料をつかったらこんなものができるかもしれないといったように、実際には作業をしているより考えている時間の方が長いのだそうだ。行き詰まったら一点に固執しないで他のことをやる。そこでもまた行き詰まったら他と、できるところから進めていると、時間が多少かかっても、ふとしたキッカケからアイデアが生まれるのだ。

一生住む家だから
先のことにも念頭に置いて

藤井家は1Fにリビングルーム、ダイニングルーム、和室2室、ベッドルーム1室、2Fのロフトと延べ床面積15.9・3mの大型ログハウス。業者さんがどうせやるなら、と好意でつくってくれた、現在道具などを収納する倉庫にしている地下スペースもある。住むのは藤井さんご夫婦、そして3匹の愛猫。年齢のことや万が一不調が出た時のことを考えて1Fはバリアフリー、トイレやバスルーム等は使いやすいさと居心地の良さを追求している。

藤井邸平面図



**「木はなんでも思い通りになる
だめだったら薪にすればいい」**

「プロじゃないから、はじめっからできるわけじゃない」。でも自分でやるから、納得のいくものができる。失敗を楽しむぐらいの余裕がないと、セルフビルドは厳しい。予備材がかなり多め搬入されていたので、余った材を工夫してイスやテーブルを作るなど有効に使うことができた。いつか何かに使えらるうと、廃材も捨てずにとつてある。なるべくプラスチックなどには使わないようにしている。

「木は生きているから、梅雨は湿気を含んでふくらむし、冬は乾燥して隙間が開く。夏涼しくて、冬は温かい。昔の木造住宅もそう、本当は土壁がカビがはえず

一番よい」のだが環境によって変わる木材を相手に、何もないところから初めているから、失敗もうまくいった点もすべて自分の知識になる。そして知識と経験は建ててからのメンテナンスにも大いに役立つのだ。

道具にもこだわった。ホームセンターで売っている道具は、プロがつかうものとは根本的に違う。長く使おうと思ったら、少々高くてもプロ仕様のいい道具を購入するのがおすすめ。揃えておいて便利な道具は、電ノコ、電気カンナ、ジグソー、ドリル、サンダー、チェーンソー、タッカー、カナズチ、卓上角ノミ。ちょっと危険だがルーターや、ビットを変えれば面トリや溝トリのできるトリマーもあると使い道は多い。

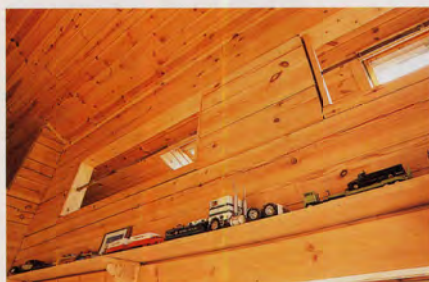


**遊びゴコロいっぱい
アイディアと工夫があちこちに**

客間の押入は奥様のリクエストで引出しタイプにした。布団の取り出しが楽で使いやすい。東急ハンズで買った漆風ペンキと格子に貼った和紙がモダンな雰囲気。



「技術なんでもものは後からついてくる」木工用のルーターでつくった洗面台を囲む富士山、南アルプス、八ヶ岳の山々が見事。すでにプロ級の腕前だ。



以前からご主人の趣味だった、本格的プラモデル。置き場に悩むのコレクションも、廃材を利用した飾り棚に並べれば、格好のオブジェになる。



ちぎり絵が趣味の奥様がテレビで作り方を見て、つくったアイディア照明シェード。和紙を通すと暖かい光になる。



廃材を加工して付けたロフト部分の明かりとりの天窗はアクリル板を2枚重ねている。空気抜きのつもりで作ったが、セtringして少し開けにくくなった。



見栄えはいいが、はめるのがひと苦労だった靴箱の扉。竹と竹に隙間があいているので、風通しがよくなって匂いがこもらず結果的にはよかった。

デッキ部分は基礎からひとりでつくった。広さは残った木材を使って設計図の倍に変更。オブジェのようなイスも廃材を利用したもの。夏にはお孫さん達のいい遊び場になる。

木に楽しいと書いてきらく工房、白黒写真工房の立派な看板。廃材が見事に生まれかわる。(上) / 「車の運転みたいなんですよ」見ようみまねではじめたチェーンソーも今は自在に操る。(下)



環境に気を使い雨水利用ソーラーにコンポストも

ソーラー発電にかかったお金は250万円。月に3000円から4000円を東電に売って、1万円分東電に支払う計算。「もとをとれるか、といったらとれないですよ。でも雨水をつかったり、自然の熱源を使ったり、トイレもコンポストで排泄物をたい肥に使えば恵みになる。何でも捨てて埋め立ててしまうより、自然の法則のリサイクルでやるのが一番いいですよ」。以前から庭いじりの好きだった奥様が手をかけている菜園からは、昨年蒔いた種が芽を出していた。

コンポストはおがくずを入、熱で攪拌される。パクリアが分解してくれるので匂いもなく、見た目は油かすのようだ。3ヶ月に1度半分を取り出して肥料にしている。(上) / 凍結防止に巻きつけた藁。(下)



合成樹脂がいやで木の雨どいを自作。ここから竹さおを伝ってタンクに雨水がたまる仕組みだ。



DATA

- 敷地面積：420坪
- 建物延べ床面積：159.3㎡
- ペランダ：34.9㎡
- 工法：丸太組工法
- 着工日：平成12年2月10日
- 完成日：平成15年3月31日
- 総工費：約2628万円
- 問合せ：
(株)TALOインターナショナル
TEL 03-3482-4555



OWNER'S PROFILE

山梨県北巨摩郡明野村
藤井孝一さん、弘子さん

ご主人の孝一さんは釣りにカメラ、オフロードバイクにキャンプと、アウトドアはひと通りなんでもこなす根っからのアクティブ派。奥様は花や野菜を育てるのが好きで、和紙を使ったちぎり絵をなさるなど実に多彩な趣味を持つご夫婦だ。本ログで腕の良さを認められ、制作を手伝って欲しいという要請がかかっているという。